

「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の進捗状況について

(1) 計画値の達成状況

本計画では、令和 13 年度を目標年次として達成すべき 5 つの具体的な数値目標を掲げています。

令和 3 年度は、5 つの数値目標のうち、総排出量・焼却処理量・最終処分量・温室効果ガス排出量は計画値を達成しましたが、再生利用率は計画値に達しませんでした。

表 1：計画値と実績値の比較

	令和 3 年度			令和 13 年度 (目標年度)
	計画値	実績値	達成状況	
総排出量 ¹ (t)	367,791	337,218	○	354,000
焼却処理量 (t)	241,027	232,690	○	235,000
再生利用率 ² (%)	35.5	33.3	×	38.0
最終処分量 ³ (t)	22,221	16,115	○	13,000
温室効果ガス排出量 (t)	81,235	79,600	○	78,000

¹ 総排出量：以下の①、②、③の合計

①家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、資源物（びん、缶、ペットボトル、古紙、布類、剪定枝等）、粗大ごみ）

②事業系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、事業系資源物（びん、缶、金属等、古紙・布類、厨芥類など）

③集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収

² 再生利用率：ごみの総排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率＝再生利用量／総排出量×100）

※再生利用量：家庭系資源物、集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収、事業系資源物、不燃ごみ・粗大ごみの破碎後資源化量、有害ごみ・焼却灰等再資源化量の合計

³ 最終処分量：埋立焼却灰量と直接埋立量（破碎残さ量を含む）の合計

ア 総排出量

令和3年度の総排出量は337,218tとなり、前年度と比べて2,318t（0.7%）増加しましたが、計画値は達成しています。

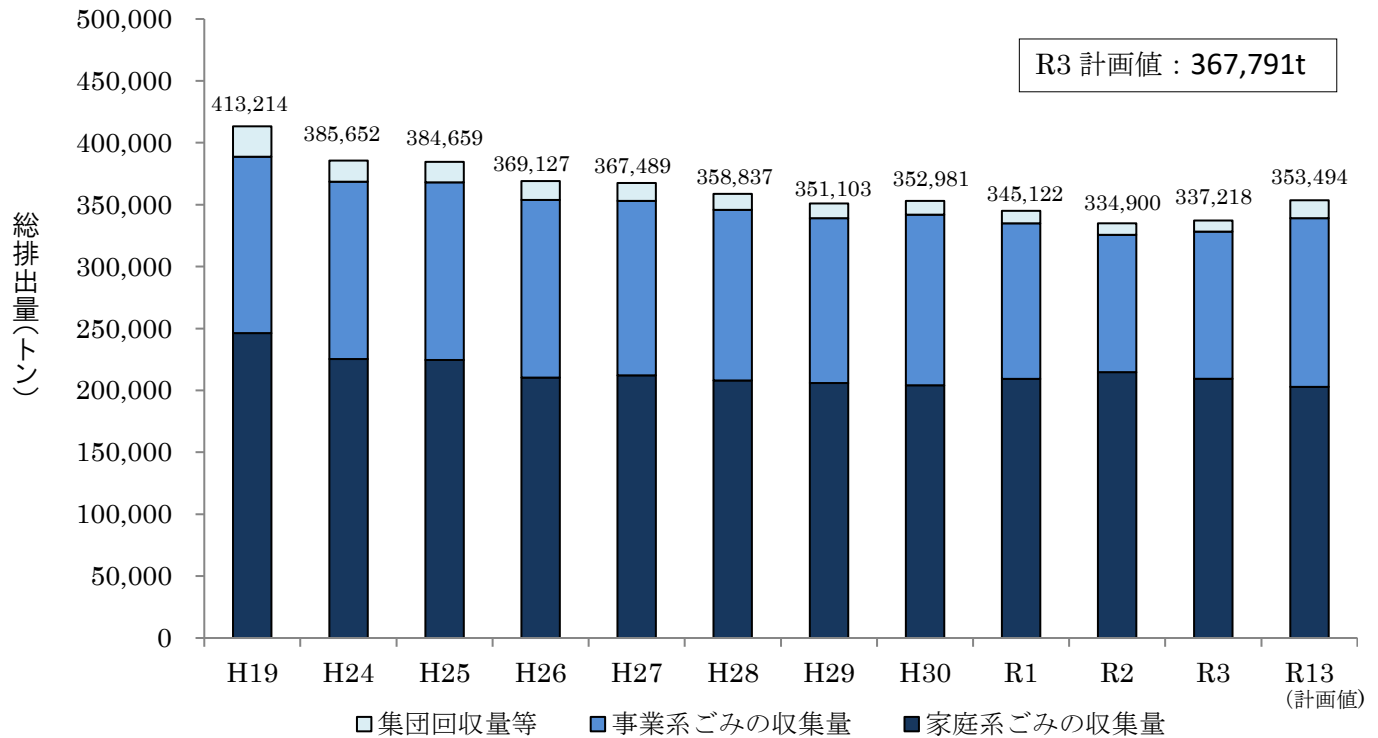


図1 ごみの総排出量の推移

【内訳】

① 家庭系ごみ

計画：175,579トン→実績：174,387トン（▲1,192トン）

② 事業系ごみ

計画：73,977トン→実績：63,831トン（▲10,146トン）

③ 家庭系資源物

計画：50,488トン→実績：43,965トン（▲6,523トン）

④ 事業系資源物

計画：67,747トン→実績：55,035トン（▲12,712トン）

【主な要因】

①家庭系可燃ごみ収集量の減少（▲3,514トン）

①家庭系不燃ごみ収集量の増加（+359トン）

①粗大ごみ収集量の増加（+1,877トン）

②事業系可燃ごみ収集量の減少（▲10,155トン）

③家庭系古紙・布類の集団回収量の減少（▲5,132トン）

④事業系古紙回収量の減少など

イ 焼却処理量

令和3年度の焼却処理量は232,690tとなり、前年度と比べて2,466t(1.0%)減少し、計画値を達成しました。

このうち、家庭から排出される焼却ごみの量は168,885t（前年度比3,870t（2.2%）減）に、事業所から出される焼却ごみの量は63,805t（前年度比1,404t（2.2%）増）となりました。

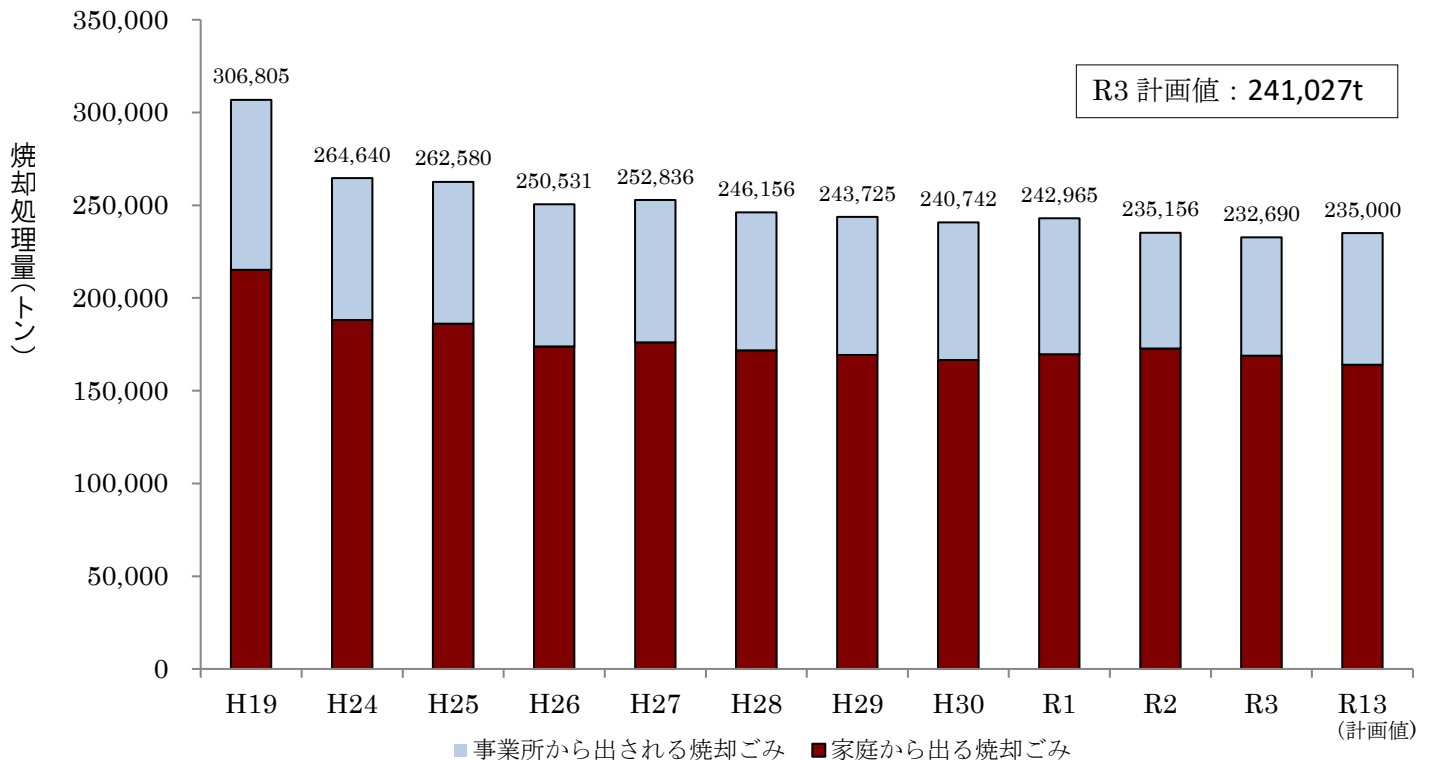


図2 焼却ごみの量の推移

【内訳】

① 家庭から排出される焼却ごみ量

計画：167,067トン→実績：168,885トン（+1,818トン）

② 事業所から排出される焼却ごみ量

計画：73,960トン→実績：63,805トン（▲10,155トン）

【主な要因】

- ①新型コロナウイルス感染症の流行に伴う生活様式の変容（外出自粛・在宅勤務等による家庭系ごみ量の増加）
- ②新型コロナウイルス感染症の流行に伴う事業活動の縮小（店舗・施設等の営業縮小など）

ウ 再生利用率

令和3年度の資源物の収集量は 89,710t でした。

このうち、家庭から出された資源物（集団回収等を除く）は 34,675t となり、前年度と比べて 1,064t（3.0%）減少しました。

また、事業所から出された資源物は 55,035t となり、前年度と比べて 6,550t（13.5%）増加しました。

集団回収等や焼却灰の再資源化等を含めた最終的な再生利用量は 112,457t で、このことから再生利用率は 33.3% となり、前年度と比べて 1.2 ポイント増加しましたが、計画値の 35.5% に達しませんでした。

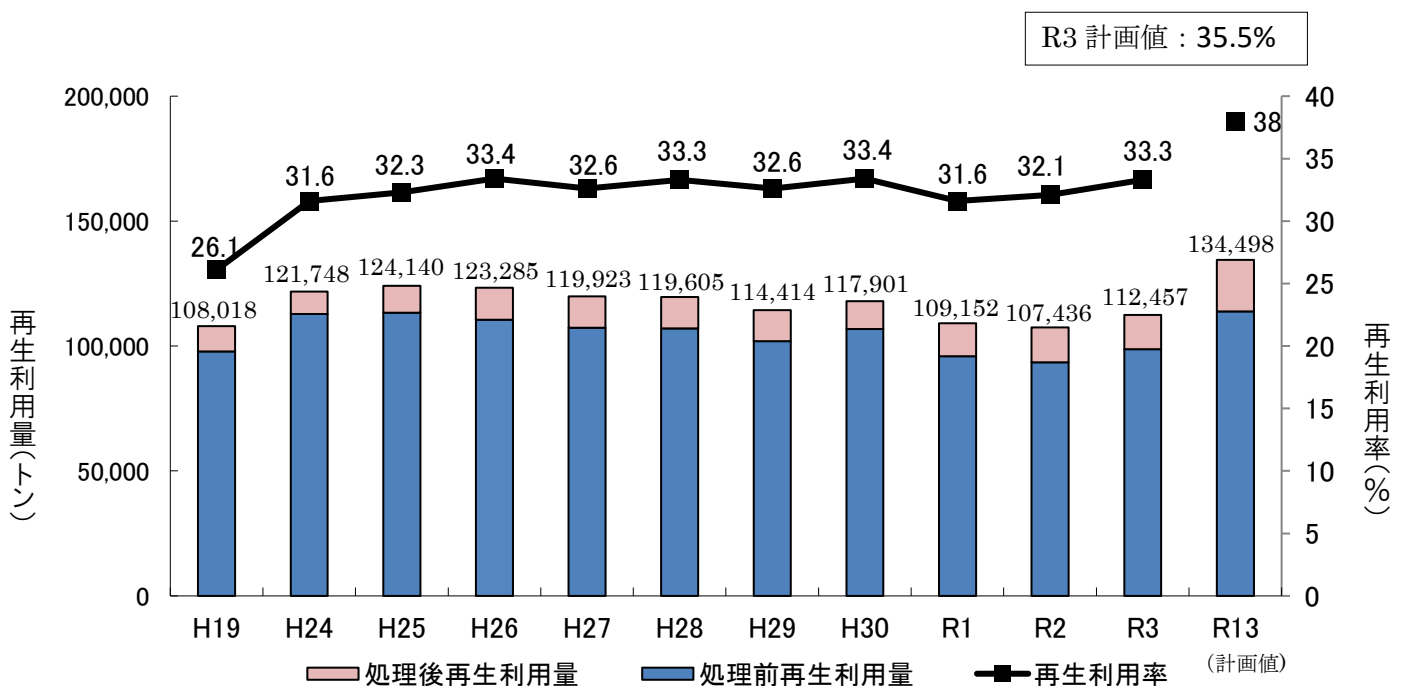


図3 再生利用量、再生利用率の推移

【内訳】

①家庭系資源物再資源化量（集団回収等を除く）

計画：36,189 トン→実績：34,675 トン（▲1,514 トン）

②事業系資源物再資源化量

計画：67,747 トン→実績：55,035 トン（▲12,712 トン）

【主な要因】

①家庭系古紙・布類の収集量の減少（▲1,447 トン）

①家庭系びん・缶・ペットボトルの収集量の減少（▲573 トン）

①家庭系剪定枝等の収集量の増加（+506 トン）

②事業系古紙再資源化量の減少など

エ 最終処分量

令和 3 年度の最終処分量は 16, 115t となり、前年度と比べて 1, 282t (7. 4%) 減少し、計画値を達成しました。

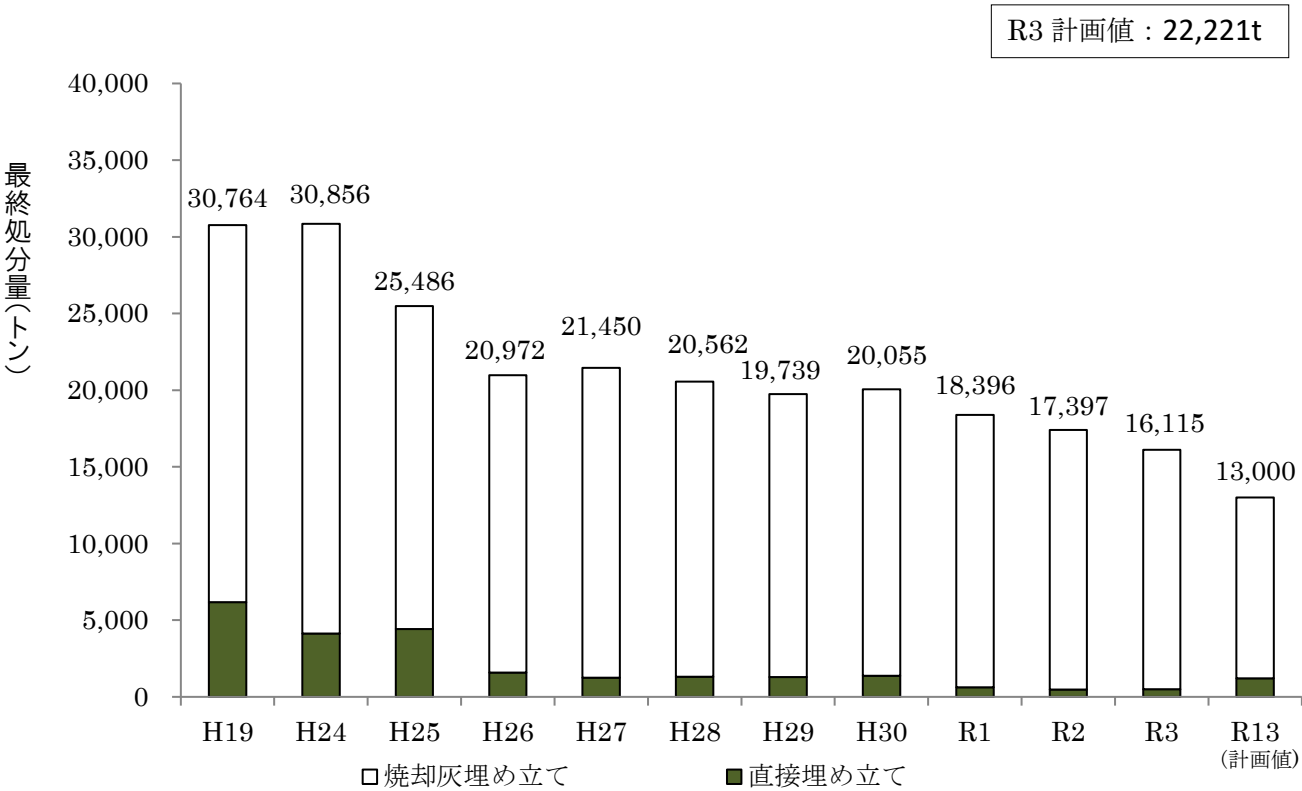


図 4 最終処分量の推移

【取組結果】

- ① 焼却灰発生率
計画 : 10. 8% → 実績 (北清掃工場) : 6. 8%
- ② 焼却灰埋立量
計画 : 20, 967 トン → 実績 : 15, 616 トン (▲5, 351 トン)

【主な要因】

- ・ 焼却灰発生率が推計値よりも低い

オ 温室効果ガス排出量

令和3年度の温室効果ガス排出量は焼却ごみの組成変化等により 79,600t となり、前年度と比べて 2,925t (3.5%) 減少し、計画値を達成しました。

表 2：温室効果ガス排出量の内訳

(単位：トン)

	清掃工場稼働に伴う発生量 (A)	廃棄物の焼却に伴う発生量 (B)	売電、熱供給に伴う間接削減量 (C)	合計 (A+B-C)
計画	※	※	※	81,235
実績	1,285	98,449	20,134	79,600
実績－計画				▲1,635

※計画値は、全体の排出量のみ計上しています。

【主な要因】

- ・ 焼却処理量の減少

R3 計画： 241,027 トン→ R3 実績： 232,690 トン (▲8,337 トン)